

乳児期の頬・全身症状を経て姉妹の皮膚状態が整ったきょうだいアトピーの経過 (14歳・11歳・9歳 小児3名)

症例 ID：001-14-TM6 | 記録日：2016年12月11日

1. 診断・治療前経過

長女は生後3か月頃から頬が赤く硬くなり、強いかゆみと掻破後の浸出液がみられました。近医で複数の薬を使用し、2歳半頃まで通院しましたが、十分な改善は得られませんでした。次女にも生後3か月頃から同様の症状が出て、次第に全身へ広がりました。長男には後年、副鼻腔炎症状がみられました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	長女と次女の乳児期の皮膚症状に外用薬・内服薬を使用しました。
製品名	リンデロン、ヒルドイド、インタール。
強度	リンデロンの強度は製剤によって異なります。
使用期間	長女は生後3か月頃から2歳半頃まで使用しました。次女の詳細は不明です。
中止時期	松本医院での治療開始時期です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後3か月頃	発症	長女・次女とも頬を中心に赤み、硬さ、かゆみ、浸出液が出ました。
乳幼児期	他院治療	外用薬と内服薬を続けましたが、症状が残りました。
松本医院受診後	治療開始	煎じ薬、漢方入浴、外用処置を開始しました。
治療初期	強い時期	入浴や消毒が傷にしみ、夜間のかゆみと掻破が続きました。
長女の卒園頃	大きな変化	皮膚はきれいになり、かゆみもほとんどみられなくなりました。
その後	次女の変化	次女の赤く硬かった頬も、皮膚状態が整いました。
記録時点	長男の治療	長男は副鼻腔炎に対する煎じ薬を続けていました。

4. ピーク時期

ピークは、次女の背中を夜間に長時間掻く必要があり、掻き傷へ消毒液がしみて強く泣いた時期です。

5. 困りごと

- ・夜間の掻破への対応により、家族の睡眠と体力への負担がありました。
- ・漢方入浴と外用処置を毎日続ける必要がありました。

6. 経過のまとめ

長女は卒園頃には皮膚がきれいになり、かゆみもほとんどみられなくなりました。

次女の頬の赤みと硬さも軽減し、皮膚状態が整いました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。